高等学校

平　成　15　年　度

教育研究員研究報告書

家　　庭

東京都教職員研修センター

平成１５年度

教　育　研　究　員　名　簿

学 校 名	氏　名
都立一橋高等学校	齊　藤　孝　子
都立足立東高等学校	林　田　加代子
都立東村山西高等学校	小　川　直　哉
都立三宅高等学校	江　原　貴　子

担当　　東京都教職員研修センター　指導主事　　望　月　昌　代

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由　…… 2

Ⅱ　研究内容
1　研究の進め方　…… 2

2　生徒による授業評価の分析
(1)　生徒による授業評価についての考察…… 3
(2)　Ａ高校の例　…… 4
(3)　Ｂ高校の例　…… 5
(4)　Ｃ高校の例　…… 6
(5)　Ｄ高校の例　…… 7

3　自己理解を深め、主体的な生活能力の育成を目指した家庭科の指導計画
(1)　家庭基礎　…… 8
(2)　家庭総合　…… １０
(3)　生活産業基礎 …… １４

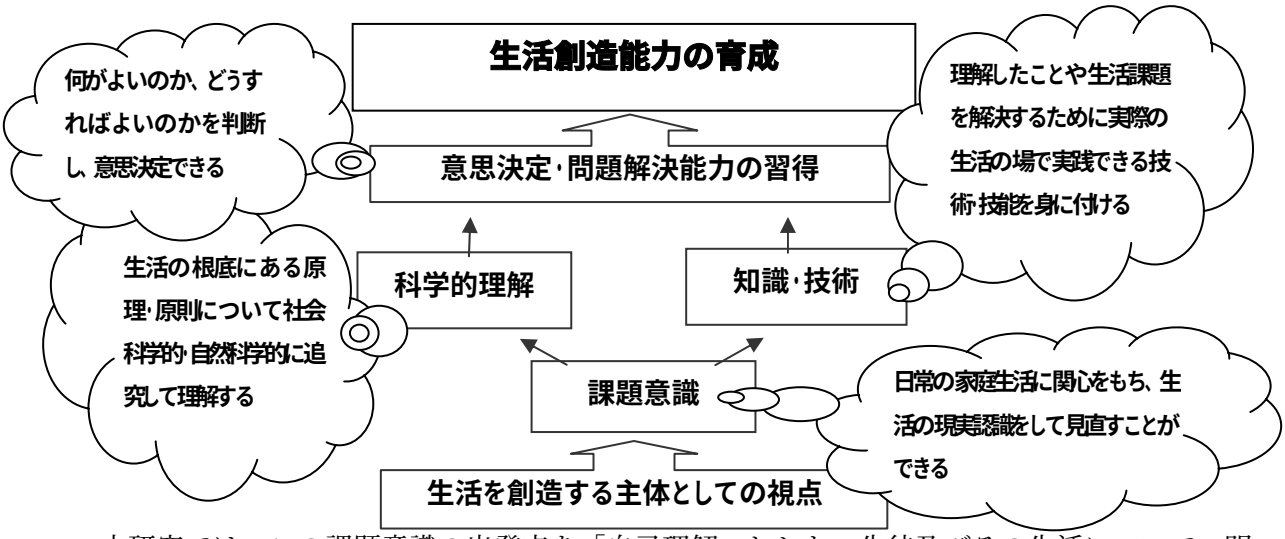
Ⅲ　指導事例
1　指導事例　1　…… １６
2　指導事例　2　…… １８
3　指導事例　3　…… ２０
4　指導事例　4　…… ２２

Ⅳ　研究の成果と今後の課題 …… ２４

授業評価を生かした指導の改善と工夫
－自己理解を深め、主体的な生活能力を育成する授業の展開－

Ⅰ　主題設定の理由

今年度から年次進行で実施されている新学習指導要領における普通教科「家庭」の目標は、「男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成する」ことである。少子高齢化が進んでいる現在、生徒一人一人が「生活を創造する主体」としての視点をもち、意志決定や問題解決のための能力を習得することがますます重要になっている。その前提として欠かせないのが、生徒に生活の現状について考えさせ、課題意識をもたせることである。様々な事象の根底にある原理・原則を科学的に理解し、豊かな知識と技術を習得した上で、生徒一人一人が自己の生活の現状を客観的に見つめ、「なぜそうするのか、どうしたよいのか」という主体的な問題意識をもたなければ、真の実践へはつながらない。



本研究では、この課題意識の出発点を「自己理解」とした。生徒及びその生活について、明確な現実認識をもつこと、それが「自分の人生のため」として主体的に学習することの動機となりえると考えたからである。また、来年度から全都立校に導入される授業評価を教師・生徒相互の意思疎通を図る機会にするとともに、生徒が自分の学習について振り返り、自己理解能力を深める一機会になる。そこで、本研究の主題を「授業評価を生かした指導の改善と工夫」とし、副題を「自己理解を深め、主体的な生活能力を育成する授業の展開」とした。

Ⅱ　研究内容

1　研究の進め方

まず授業評価を実施し、生徒自身の授業への姿勢及び教師の意図が正確に伝わっているかを調査することにした。生徒と教師双方の授業に対する考え方のずれについて、修正を加えることによって、より充実した内容の授業の実施につなげていくことが可能となるからである。

次に、新学習指導要領の目標を大きくとらえるため、「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活産業基礎」に関し、研究主題に沿った年間指導計画を作成した。時間単位で綿密な計画を提示することにより、生徒はより主体的に学習に取り組むことができる。また、「家庭総合」、「生活産業基礎」について、本研究の主題・副題を深めるような指導事例を検討した。いずれの事例も、生徒が課題意識をもって取り組むことができるような題材を設定し、指導の改善と工夫に努めた。

2　生徒による授業評価の分析

(1) 生徒による授業評価についての考察

①アンケート調査の実施について

従前より、生徒からの感想などを参考に授業を工夫・改善してきたが、今回は生徒がどのような態度で授業に臨んでいるか、授業で得たものは何か、また授業に対してどのような感想をもっているかなどアンケート調査を通して具体的に知り、今後の授業改善につなげていくことを目的として調査・研究を行った。

内容は、大きく分けると、生徒による「自己評価」と「教師の授業評価」についてであるが、画一的なものではなく、それぞれの学校の実態に合った設問となっている。評価方法は中心化傾向を避けるために、4 段階評価、及び自由記述とした。実施時期は 1 学期末として、記名式で行った。有効回答率は高く、欠席以外の白紙回答はほとんどなかった。

②結果および考察

各校ともにほとんどの質問で教師に対する評価は肯定的で好意的であった。生徒の自己評価については、授業態度などの項目で自己を肯定的にとらえる生徒が多く、教師側が認識している状況との間に隔たりがあった。

自由記述では「家庭科は、生活に関わりが深く将来に役立つ教科である。」など家庭科の授業内容に対する考えや、「赤ちゃんの服を作って、自分の子どもの時を思った」など、題材に対する意見、「黒板が見やすい」など教師の授業技術に対するものなどについても記述されていた。また、「説明が詳しく、具体的な例を挙げてくれるのでわかりやすい」、「内容が現実的で身近なので興味や関心をもつことができた」、「もっと詳しく教えてほしい」など、生徒なりに教師の授業を評価する力を有していることも読み取れた。さらに、少数ではあるが「今度は○○をしてみたい」など、生徒からの授業に対する提案もあった。

これまでも家庭科の授業の中では、実習を通して生徒の意見や取り組みを把握するように努めてきたが、どうしても教師主導型の授業になりがちであった。しかし、このようなアンケートを実施したことで、生徒は自分たちの意見や要望を「発言」できる機会を得て、授業は決して一方通行ではないということが分かり、生徒の意識改革につながったと思う。

ここで大切なことは、アンケートの結果を基に授業の改善のための方策を探り、生徒に還元していくことである。生徒の回答の中には、一部感情的な意見に基づくものもあったが、アンケートの回数を重ねていくことで、内容の方向性は定まってくるものと考える。今回は４校とも記名式で実施したためか、肯定的で好意的な意見が多かったが、無記名式にした場合は、別の角度からの意見が出てくる可能性もある。

③課題

今回の調査で、生徒はマナーや態度に関する自己評価で自己を肯定的にとらえる傾向が強く、教師と生徒の認識に隔たりがあることが分かった。生徒の自己評価力を高めるためには、アンケートの結果を知らせ、授業に取り組む姿勢を明確に示すことや、アンケートを繰り返し実施することが必要である。生徒に「自己評価」をさせることは、教師の望む「授業に対する姿勢」を生徒に知らせることでもあり、授業に対する意識の向上につながる。

今後は、生徒が気分に左右されずに回答できているかなどの項目についても調査を継続して行い、より精度の高い結果を把握し、授業の改善につなげていく必要がある。４校で行った授業評価の結果と分析については、４ページ以降に記載した。

(2) Ａ高校　全日制普通科　第２学年　クラス数：５　回答数：90　授業の形態：少人数

①アンケート項目

家庭科授業評価アンケート

年　　組　　番　氏名

日ごろの授業を振り返って、自分の気持ちに近いと思う番号に〇をつけてください。

１あてはまる　　２だいたいあてはまる　　３あまりあてはまらない　４あてはまらない

自己評価

Ｑ１　意欲をもってていねいに作業に取り組んだ

Ｑ２　今日の授業で何をするか分かり、考えながら作業を進めた

Ｑ３　説明は集中して聞き、理解が深まった

Ｑ４　授業を受ける態度やマナーはよかった

Ｑ５　用具の使い方や片付けは適切に行えた

Ｑ６　製作をとおして赤ちゃんのことをイメージできた

Ｑ７　1年生のときより興味・関心をもって授業を受けた

授業評価

Ｑ８　型紙作りの説明はわかりやすい

Ｑ９　見本はわかりやすい

Ｑ10　なにをどうすればいいか指示がわかりやすい

Ｑ11　質問に応じてくれ、わからない時は助けてくれる

Ｑ12　作業する時間は十分にあった

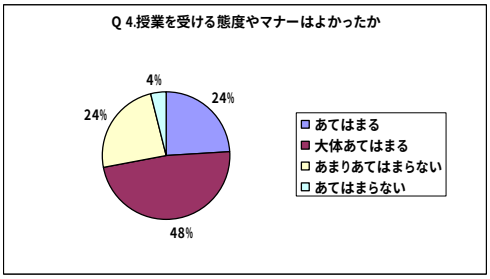
意見を書いてください

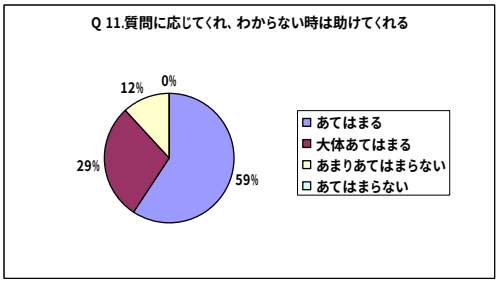
①　自分が直接着るものでないもの（乳児のもの）を製作することについて思ったことがあれば書いてください

②　この授業で良かったことがあれば、書いてください

③　この授業を改善するために提案したいことがあれば書いてください

②結果





本校では２年生で乳児の肌着製作と保育を少人数学習で学期を入れ替えて実施している。生徒の実態は、座学より実習の方が意欲的に学習に取り組む傾向があるが、教師の予告や説明を聞き逃すことが多く、またプリントや掛け図等では理解に時間がかかる面もあり、個別説明に時間を当てることが多くなる。しかしＱ２に対し肯定的に回答した生徒は７割以上であり、教師の認識より、生徒自身は考えながら作業を進めていると思っているようである。Ｑ４とＱ５についても、肯定的な回答が高い割合を占め、こちらも生徒の自己評価と教師の認識している状況とに、隔たりがあると感じた。Q11 については上記グラフで示したが、肯定的な回答が約 9 割であり、生徒は、教師のていねいな個別指導については高く評価している。

自由記述の部分で、「自分の着るものではなく、乳児のものを作るということをどう思うか」について質問したところ、肯定的な意見が約半数、「自分が着用したり使えるものがよい」が約２割という結果であった。乳児の体の小ささや、小さかった自分が成長したことについて考えたり、ものを製作する苦労や楽しさ、完成の達成感について記述したものもあり、否定的な記述はほとんど無かった。アンケートには記名させて回答を求めたこともあるが、全体的に教師が想像していたほど厳しい意見は少なく、好意的な記述が多かった。

③考察

アンケートを実施することで生徒が自分自身を振り返り、教師と生徒の双方でよりよい授業を作っていく必要があることが感じられた結果となった。今後は授業評価を効果的に授業に反映させていくために、生徒の自己評価力を高めることやアンケートの項目や記述の方法の見直しを行い、その結果を授業改善に結び付けていく必要がある。

(3) Ｂ高校　全日制普通科　第２学年　クラス数：４　回答数：100　授業形態：少人数制

①アンケート項目

質問１　授業に対して、自分は……あてはまるところに〇印をつけよう。

Ｑ１　遅刻をしないで、時間を守って出席できた。
Ｑ２　授業に必要な物（教科書、ファイル、筆記用具など）を持参できた。
Ｑ３　先生の話に興味をもって聞こうと努力した。
Ｑ４　プリントを使った作業のとき、積極的に取り組めた。
Ｑ５　実習（調理、プチバッグ、保育課題）のとき、やる気を持って取り組めた。
Ｑ６　わからないことがあった時、質問できた。
Ｑ７　どんな気分のときでも授業に集中できた。

質問２　授業に対して、先生は……あてはまるところに〇印をつけよう。
Ｑ８　分かりやすい説明をしていた。
Ｑ９　見やすく板書していた。
Q10　いつも一生懸命教えていた。
Q11　良いことに対し、適切にほめていた。
Q12　悪いことに対し、適切に注意をしていた。
Q13　質問に対し、丁寧に対応し、適切なアドバイスをしていた。
Q14　生徒により、対応する態度に差があった。

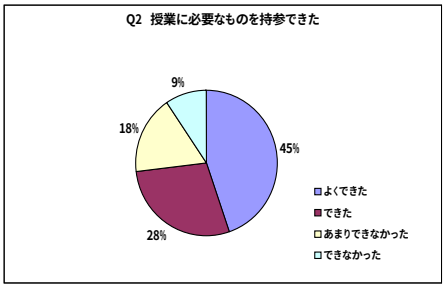
質問３　もっと良い授業になるために、何をしよう？（言葉に続き、文を書こう。）
生徒は・・・　　先生は・・・

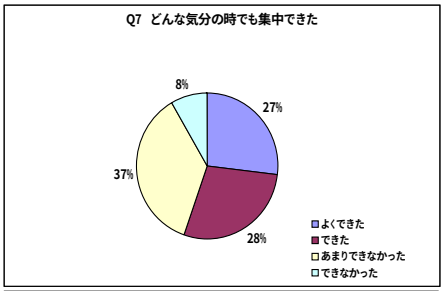
②結果

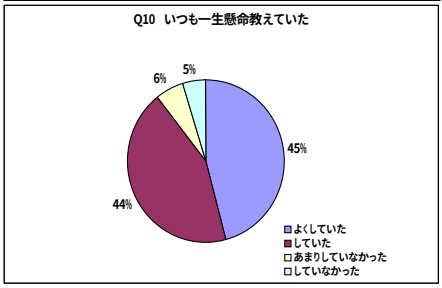
生徒の自己評価（Q1～7）より、ほとんどの質問に対し約８割の生徒は自分の授業への参加態度について肯定的なとらえ方をしていることが分かった。しかし、半数弱の生徒が気分により授業に集中できないと感じている。教師への評価（Q8～14）については、ほとんどの質問に対し約８割の生徒が教師の授業について肯定的な回答をしている。

③考察

本校では２年生で少人数制を導入しており、一年間を２分割し、食物分野、被服実習・保育分野を入れ替えて実施している。授業に当たって工夫したことは、毎回の授業の始めに授業目標を伝え、評価規準を明確にし、意欲を喚起したことである。したがって、アンケート項目Ｑ１～７は教師が生徒に望むことを中心に設定した。また、アンケートは生徒の実態に合わせ、回答が容易な形式とした。その結果、生徒の自己評価と教師への評価はともに肯定的であり、厳しいものではなかった。しかし、Q1～6 の結果は教師の予想と異なっていた。つまり、教師が望んでいる基準を大半の生徒は正しく理解していなかったということである。また Q7 の結果から、生徒は気分のムラを授業への取り組み姿勢に大きく影響させていることが分かった。さらに、Q8～13 の結果も想像していたより肯定的なものだった。今回は１学期期末考査後に記名式で実施した。生徒の回答はアンケート実施時期・方法により変化する可能性もある。異なる時期や方法で実施した場合と比較し、考察していく必要がある。また、対象生徒によりアンケート項目の文章を十分配慮して作成しなければ、誤った結果が出る可能性がある。質問３では教師への励ましの言葉、授業の改善点など具体的な要望も見られ、自由記述の項目も必要と感じた。





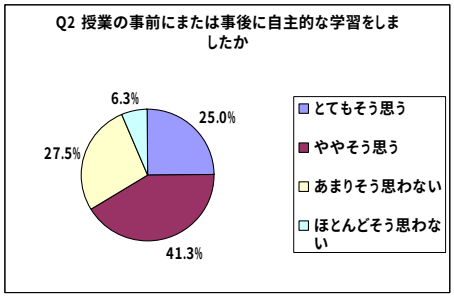


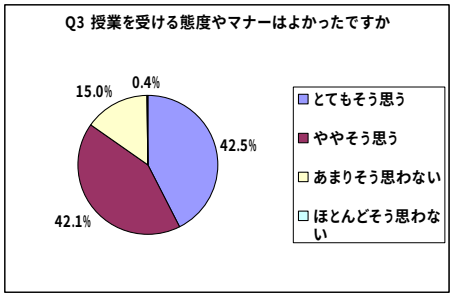
(4) Ｃ高校　全日制普通科　第１学年　クラス数：６　回答数：240

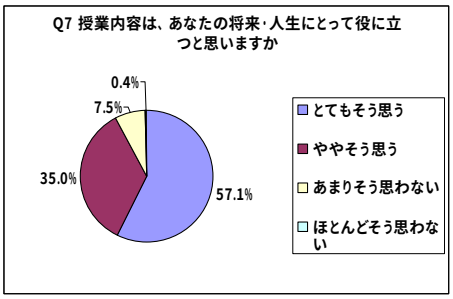
①アンケート項目

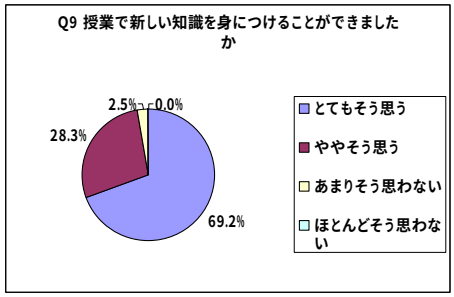
Ｑ１　授業に意欲的に取り組みましたか。
Ｑ２　授業の事前にまたは事後に自主的な学習をしましたか。
Ｑ３　授業を受ける態度やマナーはよかったですか。
Ｑ４　授業の内容に興味をもつことができましたか。
Ｑ５　授業の内容は分かりやすかったですか。
Ｑ６　授業の進度は適切でしたか。
Ｑ７　授業内容は、あなたの将来・人生にとって役に立つと思いますか。
Ｑ８　教える側は、授業内容をよく理解させる努力をしていたと思いますか。
Ｑ９　授業で新しい知識を身に付けることができましたか。

②結果









Q1授業に意欲的に取り組みましたか
とてもそう思う(37.9%)ややそう思う(55.4%)あまりそう思わない(6.7%)ほとんどそう思わない(0.0%)
Q4授業の内容に興味をもつことができましたか
とてもそう思う(36.3%)ややそう思う(54.6%)あまりそう思わない(8.8%)ほとんどそう思わない(0.4%)
Q5授業の内容は分かりやすかったですか
とてもそう思う(55.4%)ややそう思う(42.1%)あまりそう思わない(2.5%)ほとんどそう思わない(0.0%)
Q6授業の進度は適切でしたか
とてもそう思う(50.8%)ややそう思う(45.8%)あまりそう思わない(2.9%)ほとんどそう思わない(0.4%)
Q8教える方は授業内容をよく理解させる努力をしていたと思いますか
とてもそう思う(70.4%)ややそう思う(26.7%)あまりそう思わない(2.5%)ほとんどそう思わない(0.4%)

③考察

本校では、１，２学年で４単位の「家庭総合」を履修している。座学が中心となる１学年では、知識の伝達に終わることなく、身近な具体例をあげ現実社会との接点を多くもてるよう工夫している。

今回、授業改善・授業内容の充実を図るために１学年240名を対象に生徒による授業評価アンケートを期末考査時に解答用紙に組み入れて行った。評価が一方的にならないように生徒自身の取り組み、意欲、態度、マナー等の質問も評価項目に入れた。集計結果に示したとおり、生徒は授業内容を肯定的に受け止めた回答をしており、自由意見では、「自分が将来社会に出て、生きていく上で大切な内容なので意欲的に取り組めた」という記述もいくつかあった。授業を受ける状態による違い（午前、午後）で評価に差が出ると考えられたが、そのようなクラス間の格差は見られないことが集計結果より読み取れた。生徒による授業評価を行ったことにより、自分では気付かない視点を発見することができ、より生徒の実態に即した授業を行うための工夫・改善に生かすことができた。また、生徒一人一人の意見を受け止め、画一的な授業ではなく、現実社会と接点をもった学ぶ意味が実感できる授業を行う必要性を再確認した。

(5) **Ｄ高校　全日制家政科　第２学年　クラス数：１　回答数４**

①「食物」の授業に関して

ア　アンケート項目

①興味や関心をもって授業に参加できたか。
②意欲的に取り組むことができたか。
③授業内容は分かりやすかったか。
④先生の説明は分かりやすかったか。
⑤先生は、質問したことに分かりやすく答えていたか。
⑥授業を受けてよかったこと（自由記述）
⑦授業への要望（自由記述）

イ　結果および考察

「食物」では、食品の調理性を実験とそのまとめを通して体験的に学習する授業を実施している。実験だけでは、実生活に結び付けた学習になりにくいので、実験後はその調理性を応用した実習を取り入れ、理論と実習がしっかりと身に付くよう、授業展開を工夫している。

また、定期考査では、理論が定着しているかを把握するため、すべて記述式で解答をさせている。

今回の期末考査の一例
○70℃という温度でかきたま汁を作ったときの状態とその理由について
・熱が卵の凝固温度（卵白→72～80℃、卵黄→68℃）より低いから卵が固まらなくてにごってしまう。
（Ａ子の解答；70 度ではでんぷんが糊化しないことを考察していない）
・卵白は 72～80℃、卵黄は 68℃で固まる。70℃では卵はよく固まらないので汁がにごる。また、でんぷんも糊化しない。（Ｂ子の解答；実験の結果を踏まえた内容である）

このように、実験を通して体験的に学習できたため、ポイントがつかみやすかったようである。従前のように知識・理解を主とする座学の授業では、２時間の授業に集中できない生徒が多かった。この点を改善するために、実験を取り入れ、体験的な授業へ構成を変えた。アンケートの結果から、実習を重視した「食物」の授業に対して生徒は、興味・関心をもち、意欲的に取り組み、知識を理解する力を身に付け、「わかりやすい」と回答する生徒が多くなった。教師の授業に対しても、肯定的な意見が多く、授業を「楽しい」ととらえている。

②「被服（ゆかたの製作）」の授業に関して

ア　アンケート項目

①興味や関心をもって授業に参加できたか。
②意欲的に取り組むことができたか。
③ていねいに作業したと思うか。
④がら合わせの必要性が理解できたか。
⑤基礎ぬいについて理解できたか
　ａ．合わせぬい　ｂ．三つ折りぐけ　ｃ．耳ぐけ
　ｄ．本ぐけ　ｅ．すくい返し留め
⑥着装について理解できたか。
⑦先生の説明は分かりやすかったか。
⑧先生は質問に対して応じてくれ、分からないときは助けてくれたか。
⑨作業時間は十分だったか。
⑩ゆかたを製作してみて思ったこと（自由記述）
⑪被服の授業でよかった点（自由記述）
⑫先生に改善してほしい点（自由記述）

イ　結果および考察

「被服」についても「食物」の授業と同様に、興味・関心をもち、課題に意欲的に取り組んでおり、アンケートの結果にもそれが表れている。

技術の習得については４名という少人数で授業のため、一人一人に丁寧な対応ができ、基礎はしっかりと身に付いた。今回のアンケートで着装についての理解度が低かったことが分かったので、補習期間を設け、着装の技術を確実に身に付けさせたいと考えた。

自由記述の項目からは、ゆかたの製作は生徒にとって、「楽しい」、「好き」と肯定的にとらえられ、教師の説明については「わかりやすかった」という反面、教師の技術指導に対しては「間違えないようにしてほしい」という意見があった。

文章による指摘は、教師に対して好意的な感情のもとに書かれていたが、指摘についてはしっかりと受け止めていかなければならない。また、教科指導については、より一層の研修を積み、生徒の要望にこたえるようにしていきたい。

3　自己理解を深め、主体的な生活能力の育成を目指した指導計画

(1) 家庭基礎

人の一生を時間軸でとらえることを配慮して作成した。高校生である生徒が現在直面してる問題から、今後迎えるライフイベントまでを順に提示することにより、様々な課題を自分自身の問題として具体的にイメージすることが容易になると考えた。

	回	指導内容			指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
4月	1	「家庭基礎」を学ぶにあたって			科目の目標を理解させる	家庭基礎の学習法について	自己紹介シート、アンケート
	2	(1)人の一生と家族・福祉	ア生涯発達と家族	(ア)生涯発達と各ライフステージの特徴	生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。	ライフステージについて	ワークシート「自立度チェック」
	3			(ウ)生活設計		①生活設計を考える	ワークシート「ライフプランシート」
	4					②生活設計に必要なものとは	ワークシート「連路別学費チェック」
5月	5	(2)家族の生活と健康	ア食生活の管理と健康	(ア)家族の栄養と食事	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	①現代食生活の問題点について	ワークシート「食生活チェック」
	6					②栄養素について	プリント「栄養素」
	7					③栄養バランスについて	プリント「食品群別摂取量の目安」
	8			(イ)食品と調理		①調理実習１回目の説明	プリント「調理実習１」
	9					②調理実習１回目	青年期に適する昼食献立　など
	10					〃	〃
	11					③食材の栄養・調理特質	ワークシート「実習のまとめ」
	12					④栄養価計算	コンピュータ計算ソフトの利用
6月	13		ウ住生活の管理と健康	(ア)家族の生活と住居	住居の機能、住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の住生活を快適に営むことができるようにする。	①単身者として住居を考える	ワークシート「一人暮らしの賃貸計画」
	14			(イ)住生活の健康・安全		①単身者として住環境を考える	ワークシート「健康的な住居チェック」
	15		イ衣生活の管理と健康	(ア)被服の機能と着装	被服の機能と着装、被服材料などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の衣生活を健康で快適に営むことができるようにする。	①被服の機能	プリント「民族衣装クイズ」
	16					②被服の着装	ワークシート「ＴＰＯチェック」
	17			(イ)被服材料の特徴と被服管理		①被服の取扱い	ワークシート「取扱い絵表示調べ」
	18					②被服の材料Ⅰ　繊維	プリント「被服の素材」
	19					③被服の素材Ⅱ	燃焼実験、ワークシート
	20					④被服整理Ⅰ	ＶＴＲ「洗濯の仕組み」、ワークシート
7月	21					⑤被服整理Ⅱ	染み抜き実験、ワークシート
	22					⑥適切な選択	ワークシート「制服デザイン」
	23		ア食生活の管理と健康	(ウ)食生活の安全と衛生	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	①清涼飲料水しらべ	実験「糖度測定、人工ジュース作り」
	24					②食品添加物	ＶＴＲ「食品添加物の秘密」、ワークシート
	25					③腐敗・変敗、食中毒	ＶＴＲ「食中毒の予防」、ワークシート
9月	26	(4)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			ホームプロジェクトの意義を理解させ、各自の生活の中から課題を見いだし、課題解決を目指して主体的に計画をたてて実践することができるようにする	ホームプロジェクト課題説明	ＶＴＲ「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」、ワークシート
	27					ホームプロジェクト発表	相互評価表
	28					〃	〃
	29	(3)消費生活と環境	ア家庭の経済と消費	(イ)社会の変化と消費生活	家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。	①消費生活の変化	ワークシート「消費行動チェック」
	30					②販売信用	ＶＴＲ「クレジットカードの仕組み」
	31					③消費者金融	ワークシート「返済計画をたてよう」
	32					④様々な販売方法	プリント「販売方法」
	33					⑤契約と解約	ワークシート「契約と解約手続き」
	34					⑥消費者の責任	プリント「消費者の権利と義務」

	回	指導内容			指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
10月	35	(1)	ア	(イ)家庭の機能と家族	生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。	①職業労働と家事労働	ワークシート「将来どのように働こう？」
	36					②現代家族の特徴	ワークシート「いろいろな家族探し」
	37					③家族の役割	ワークシート「家族の生活を知ろう」
	38					④家族法	プリント「家族法クイズ」
11月	39	(2)	ア	(イ)	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	⑤配膳とマナー	ＶＴＲ「マナー教室」
	40					⑥調理実習２回目の説明	プリント「調理実習２」
	41					⑦調理実習２回目	西洋料理の基本
	42					〃	〃
	43					⑧食材の栄養・調理特質	ワークシート「実習のまとめ」
	44					⑨献立作成	栄養価計算（コンピュータ）
12月	45	(1)	イ乳幼児の心身の発達と生活	(イ)親の役割と保育	乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解させ、子どもを生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。	①親の役割	ワークシート「親の役割」
	46					②子育て支援策	ワークシート「子育ての悩みをネットで調べよう」
	47			(ウ)子どもの福祉		子どもの福祉	プリント「児童福祉」
	48			(ア)乳幼児の心身の発達と生活		①心身の発達	プリント「乳幼児の特徴」
	49					②乳幼児の生活	ワークシート「乳幼児の衣食住を調べよう」
	50					③子どもの遊び	プリント「発達段階と遊び」、実習事前プリント
	51					④保育園実習	プリント「実習のまとめ」
	52					⑤保育園実習	プリント「実習のまとめ」
1月	53	(2)	ア	(ア)	5～7回と同じ	④調理実習３回目	乳幼児食　など
	54					〃	〃
	55		ウ	(ア)	13～14回と同じ	②家族として住宅を考える	ワークシート「間取りの変化」
	56			(イ)		②家族として住環境を考える	ワークシート「家族と住環境」
2月	57	(1)	ウ高齢者の生活と福祉	(ア)高齢者の心身の特徴	高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割が重要であることを認識させる。	①心身の特徴	プリント「高齢者の特徴」
	58					②シニア体験	シニア体験実習
	59			(イ)高齢者の福祉		①高齢者への自立生活支援	ワークシート「高齢者インタビュー」
	60					②高齢者の福祉	VTR「介護の基礎」、ワークシート
	61	(2)	ア	(ア)	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得させ、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	⑤調理実習４回目の説明	プリント「調理実習４」
	62					⑥調理実習４回目	老年期に適する献立　など
	63					〃	〃
	64					⑦食材の栄養・調理特質	ワークシート「実習のまとめ」
3月	65	(3)	ア	(ア)家庭の経済生活	家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。	家庭の経済を考える	ワークシート「家計チェック」
	66		イ消費行動と環境	(ア)消費生活と環境との関わり	現代の消費生活と環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直すことができるようにする。	消費と環境	ワークシート「エコ生活チェック」
	67			(イ)環境負荷の少ない生活への取り組み		環境問題を調べよう	ワークシート「新聞記事から調べよう」
	68					環境問題への取り組みを考える	発表、プリント
	69	(1)	ア	(ウ)	3～4回と同じ	③生活設計	ワーク「人生すごろくを作ろう」
	70					④生活設計	〃

(2) 家庭総合　１学年

人間の生き方や家族などに関する学習をライフステージごとの課題とかかわらせて扱い、生徒自身の問題として主体的に学習することが可能になるように全ての領域を2学年にわたって学習させるよう計画した。

	回	指導内容		指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
4月	1	家庭総合を学ぶにあたって		科目の目標を理解させる	家庭総合の学び方について	自己紹介シート
5月	2	（1）人の一生と家族・家庭	ア人の一生と発達課題	生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて認識させる	自分の人生をみつめる	ワークシート　「自立度チェック」
	3				〃	
	4				人の一生と発達課題を考える	VTR　「私の生き方」
	5				〃	プリント　「青年期の課題」
	6		ウ生活設計	青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。	生活設計を考える	ワークシート「ライフプラン」
	7				〃	指導事例１ 課題　「自己実現のための自分らしい生き方」
	8	（5）消費生活と資源・環境	イ家庭の経済生活	家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解させ、主体的な家計管理と家庭の経済計画の重要性について認識させる。	現代の消費生活の特徴を知る	ワークシート「消費者クイズQ&A」
	9		ア消費行動と意思決定	消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解させる。	消費行動と意思決定について考える。	ワークシート「デシジョンツリー」
6月	10		エ消費行動と資源・環境	現代の消費生活と資源や環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。	意思決定と生活情報について理解する	ワークシート　「消費生活チェック」
	11				循環型社会と消費について	VTR　「地球環境」
	12				〃	
	13				これからの消費生活について	
	14				〃	調べ学習　「各国の環境問題」
7月	15	（4）生活の科学と文化	ア食生活の科学と文化	栄養、食品、調理などについて科学的に理解させるとともに、食生活の文化に関心を持たせ、必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようにする。	食べることの意味	VTR　「食のルーツ」
	16				食生活の成り立ち	
	17				現代の食生活	ワークシート　「食生活チェック」
	18				食品の選択と取り扱い	VTR　「食品と栄養」
	19				〃	
	20				〃	
	21				〃	プリント　「サプリメント」
	22				これからの食生活を考える	VTR　「日本型食生活」
	23				〃	
	24	（1）人の一生と家族・家庭	ウ生活設計	青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。	自分らしく生きるとは	ワークシート　「生活時間の点検」
	25				〃	
9月	26	（6）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		ホームプロジェクトの意義を理解させ、各自の生活の中から課題を見い出し、課題解決を目指して主体的に計画をたてて実践することができるようにする。	生活の改善　地域活動をしよう	
	27				生活の改善　発表会	プレゼンテーション　生徒による評価
	28				〃	
	29				生活の改善　討論会	
	30	（5）消費生活と資源・環境	エ消費行動と資源・環境	現代の消費生活と資源や環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。	生活資源について考える	プリント　「生活資源の活用」
	31				〃	
	32	（4）生活の科学と文化	イ衣生活の科学と文化	被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させるとともに、衣生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を修得して充実した衣生活を営むことができるようにする。	人と被服のかかわりについて考える	プリント　「被服の機能」
	33				衣生活の成り立ち	
	34				現代の衣生活	調べ学習　「ユニバーサルデザイン」

	回	指導内容		指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
10月	35	（4）生活の科学と文化	イ衣生活の科学と文化	被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させるとともに、衣生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を修得して充実した衣生活を営むことができるようにする。	衣生活の計画	ワークシート　「購入、活用、管理、廃棄」
	36				気持ちよく着る工夫	
	37				安全に着る	
	38				自分らしさの表現	ワークシート　「自分らしいコーディネイト」
	39		ウ住生活の科学と文化	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などのついて科学的に理解させるとともに、住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。	人と住居	
	40				住生活の成り立ち	ワークシート　「住空間の計画」
11月	41				現代の住生活	ワークシート　「一人暮らしの住居費」
	42				住居と健康	調べ学習　「シックハウス」
	43				住居と安全	VTR　「バリアフリー住宅」
	44				安全に配慮した住まい方	
	45				住居の管理	VTR　「住まいの手入れ」
	46	（1）人の一生と家族・家庭	イ家族・家庭と社会	家族の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解させ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわり、男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。	家族生活と福祉	
	47				家族生活と福祉	
	48				これからの家族・社会	ワークシート　「家族法クイズ」
12月	49				〃	
	50	（3）高齢者の生活と福祉	ア高齢者の心身の特徴と生活	加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかかわりについて考えさせる。	高齢社会を考える豊かに年をとろう	シニア体験実習
	51		イ高齢者の福祉	高齢社会の現状と課題について考えさせ、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解させる。	高齢期の心身の特徴と生活	
	52		ウ高齢者の介護の基礎	日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミニュケーションの重要性について認識させ、高齢者と適切にかかわることができるようにする。	高齢期の課題　私たちと高齢者	介護模擬体験
1月	53	（2）子どもの発達と保育・福祉	ア子どもの発達	母体の健康管理と子どもの誕生，子どもの心身の発達と特徴及び子どもの生活と遊びについて理解させると共に，子どもの発達と環境とのかかわりについて認識させ，子どもと適切にかかわることができるようにする。	母体の健康管理	
	54				生命の誕生	VTR　受精・妊娠の仕組み
	55				心身の発達の特徴	VTR　乳幼児の心身の発達
	56				子どもの生活と遊び	絵本読み聞かせ
	57		イ親の役割と保育	親の役割と子どもの人間形成及び親の保育責任とその支援について理解させ、子どもを生み育てることの意義について考えさせるとともに、家庭における親の役割の重要性について認識させる。	子育ての意義と楽しさ	指導事例３ ワークシート　「子育ての悩みをネットで調べる」
	58				〃	
2月	59				子どもの権利と福祉	
	60		ウ子どもの福祉	子どもが健全に育つことをねらいとした児童福祉の基本的な理念について理解させ、子どもを取り巻く環境の変化や課題について考えさせる。	〃	調べ学習　「新聞記事集め」
	61				これからの子育て	
	62				〃	
	63	（1）人の一生と家族・家庭	ウ生活設計	青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。	ライフスタイルの選択	ワークシート　「職業調べ」
	64				〃	
	65				ライフコースの計画	ワークシート　「ライフプラン」
	66				ライフコースの計画	ワーク　「人生すごろくを作ろう」
3月	67				私の生活設計	ワークシート　「自己実現」
	68				〃	
	69	（4）生活の科学と文化	エ生活文化の伝承と創造	衣食住にかかわる生活文化の背景について理解させるとともに、生活文化に関心をもたせ、それを伝承し創造しようとする意欲をもたせる。	生活文化の背景	調べ学習　「和服の特徴」
	70				科学技術と生活文化	

家庭総合　　２学年

	回	指導内容		指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
4月	1	（4）生活の科学と文化	ア食生活の科学と文化	栄養、食品、調理などについて科学的に理解させるとともに、食生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようにする。	体に必要な栄養素と食品	ワークシート　「栄養素と食品の関係」
	2				炭水化物と多く含む食品	
	3				脂質と多く含む食品	
	4				たんぱく質と多く含む食品	実験　「小麦粉とグルテン」
	5				調理実習事前指導	
	6				調理実習　①	日常食
	7				〃	〃
	8				ミネラル、ビタミン、その他の食品	ワークシート　「スポーツ飲料調べ」
	9				栄養素と運動量	ワークシート　［ＢＭＩの計算」
	10				家族の食事計画と献立	ワークシート　「献立作成」
	11				調理実習事前指導	
	12				調理実習　②	高齢者の食事
5月	13				〃	〃
	14	（2）子どもの発達と保育・福祉	ア子どもの発達	母体の健康管理と子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴及び子どもの生活と遊びについて理解させるとともに、子どもの発達と環境とのかかわりについて認識させ、子どもと適切にかかわることができるようにする。	子どもの心身の成長と発達の特徴	
	15				子どもの生活と遊び	ワーク　「児童文化財製作」
	16				〃	保育園実習事前指導
	17		イ親の役割と保育	親の役割と子どもの人間形成及び親の保育責任とその支援について理解させ、子どもを生み育てることの意義について考えさせるとともに、家庭における親の役割の重要性について認識させる。	子どもの生活と保育	保育園実習
	18				〃	
	19				子どもの健康と安全	
	20		ウ子どもの福祉	子どもが健全に育つことをねらいとした児童福祉の基本的な理念について理解させ、子どもを取り巻く環境の変化や課題について考えさせる。	子どもの保育環境	ワークシート　「世界の子どもの現状」
6月	21				子どもと一緒に育つ	
	22	（1）人の一生と家族・家庭	イ家族・家庭と社会	家庭の機能と家族関係，家族・家庭と法律，家庭生活と福祉などについて理解させ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわり，男女が協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。	家族をみつめる	ワーク　「家族をテーマにドラマを作る」
	23				家庭・家族と法律	
	24	（3）高齢者の生活と福祉	ウ高齢者の介護の基礎	日常生活の介助を体験的に学ぶことを通して、高齢者介護の心構えやコミニュケーションの重要性について認識させ、高齢者と適切にかかわることができるようにする。	高齢者の日常生活	介護施設見学事前指導
	25				高齢者介護の実際	介護施設見学
	26				〃	〃
	27		ア高齢者の心身の特徴と生活	加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかかわりについて考えさせる。	日本の高齢者の特徴	調べ学習　「新聞記事集め」
7月	28				〃	
	29		イ高齢者の福祉	高齢社会の現状と課題について考えさせ、高齢者福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスについて理解させる。	高齢者の生活支援と福祉	
	30				〃	
	31	（4）生活の科学と文化	ウ住生活の科学と文化	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などのついて科学的に理解させるとともに、住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。	家族と住空間	ワークシート　「一人暮らしの賃貸計画」
	32				住空間の計画	VTR　マイルーム
9月	33				〃	ワークシート　「自分の部屋のインテリア」
	34				住環境と地域社会	

	回	指導内容		指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
10月	35	（4）生活の科学と文化	ウ住生活の科学と文化	住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などのついて科学的に理解させるとともに、住生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする。	安心して暮らせる住環境	インターネット検索　「ユニバーサルデザインの住宅」
	36				生活を取り巻く環境	〃
	37				住民参加の街作り	
	38		エ生活文化の伝承と創造	衣食住にかかわる生活文化の背景について理解させるとともに、生活文化に関心をもたせ、それを伝承し創造しようとする意欲をもたせる。		調べ学習　「住生活のハレの日・ケの日を探す」
11月	39		イ衣生活の科学と文化	被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させるとともに、衣生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を修得して充実した衣生活を営むことができるようにする。	被服と材料	
	40				被服製作	フリースのパーカー製作
	41				〃	〃
	42				〃	〃
	43				〃	〃
	44				〃	〃
	45				〃	〃
	46				〃	〃
	47				これからの衣生活を考える	
12月	48	（5）消費生活と資源・環境	イ家庭の経済生活	家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解させ、主体的な家計管理と家庭の経済計画の重要性について認識させる。	経済の仕組みと家計	調べ学習　「レシート集め」
	49				〃	ワーク　家計簿(コンピューター)
	50				家庭の経済計画と家計管理	
	51				〃	
1月	52	（4）生活の科学と文化	エ生活文化の伝承と創造	38回と同じ	生活文化の創造	指導事例２ 調べ学習「我が家に伝わる伝統の料理」
	53		ア食生活の科学と文化	栄養、食品、調理などについて科学的に理解させるとともに、食生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようにする。	家族の食事計画と献立	
	54				調理実習事前指導	実習の説明
	55				調理実習　③	行事食
	56				〃	〃
	57				これからの食生活を考える	課題　「自分の食生活を見直す」
	58				調理実習事前指導	実習の説明
	59				調理実習　④	郷土食
	60				〃	〃
2月	61	（5）消費生活と資源・環境	エ消費行動と資源・環境	現代の消費生活と資源や環境とのかかわりについて理解させ、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直し、環境に調和した生活を工夫できるようにする。	消費行動をめぐる問題	ワークシート　「エコ生活チェック」
	62				〃	
	63		ウ消費者の権利と責任	消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者として主体的に判断し、責任をもって行動できるようにする。	消費者の保護と責任	ワークシート「クーリングオフ」
	64				〃	
3月	65	（1）人の一生と家族・家庭	ウ生活設計	青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活のあり方について考えさせる。	ライフスタイルの選択	調べ学習　「職業労働」
	66				〃	調べ学習　「家事労働」
	67				ライフコースの計画	
	68				〃	ワークシート　「自分の将来展望しよう」
	69				私の生活設計	
	70				〃	課題「今どのように生きたらよいか考える」

(3)　生活産業基礎

卒業後の進路についての意識を深めるために、「自分」の生活や「仕事」について主体的に取り組んでいけるような内容を多く取り入れた。また,インターンシップを早い時期に取り入れることにより、興味のある職業について深く考えさせる機会を設けるようにした。

	回	指導内容	指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
4月	1	（1）生活と産業	生活産業基礎を学ぶ目的	学習活動の概要	
	2			高校の時間割の仕組みと評価方法の確認	プリント：中学校との違い（単位、未習得、不履修とは、など）
	3			エンカウンター	実習：エンカウンター「私のしたいこと」
	4				
	5			「エゴグラム」による自己理解	指導事例４ 実習：「エゴグラム」チェックとその解析
	6				
5月	7		生活産業に関わる仕事と専門科目の関係を理解させる	生活産業の仕事	プリント：自分の一日と産業の関わり。仕事の職業別分類、産業別分類表
	8				
	9	（4）職業生活と自己実現	職業生活が自己実現につながることを理解する。　職業観・勤労観の育成を目指す	職業生活と生きがい、職業人としての資質	プリント：何のために働くのか（働く意義、学生との違いなど）
	10			労働環境や就業形態の変化	プリント：労働環境や就業形態の変化（終身雇用・契約雇用・出向・フリーター・リストラ・外国人労働者・ベンチャービジネス・無店舗店） 実習：正社員・派遣社員・フリーターの違い
	11			求人票の見方	プリント：求人票の見方
	12			履歴書、調査書について	プリント：履歴書（志望の動機に注目）、調査書（進学用、就職用；欠席日数、評定値に注目）
6月	13			インターンシップについて	プリント：インターンシップとは（目的など） アンケート：希望する職種、現場など（何を学んできたいか）
	14				
	15			職場でのコミュニケーションのポイント	プリント：職場内の人間関係、あいさつなど 実習：接客場面のロールプレーイング
	16				
	17			社会人としてのルールやマナー	プリント：敬語の使い分け、電話の応対、手紙の書き方 実習：アポイントメントの取り方
	18				
	19				
	20				
7月	21			職業人へのインタビュー	プリント：職業人へのインタビュー（インターンシップの受け入れ先に対して実施） 実習：発表、感想レポート
	22				
	23				
	24				
	25			インターンシップについて	プリント：インターンシップ実習日誌（実習時の注意点、実習日誌の書き方など） 実習：事業所調べ（インターンシップ受け入れ先）
	26				
夏季休業				インターンシップ	実習：就業体験、礼状の作成、送付
9月	27			インターンシップまとめ	アンケート：インターンシップについて（意義や目的、態度、マナー、感想） 実習：発表会資料の作成（キーワード提示）
	28				
	29			発表会	実習：プレゼンテーション、生徒による評価
	30				
	31		身近な生活産業の意義や役割と、各分野の職業について理解させるとともに、それらの職業に必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を育てる。	職業調べをするにあたって	プリント：プレゼンテーションの方法、インターネット検索キーワード・アドレス、参考文献について 実習：班編成（食生活・衣生活・住生活・ヒューマンサービス関連分野）
	32				
	33			職業調べ	実習：産業の発展（歴史）、社会の変化と産業の変化（高齢化・少子化、国際化、情報化、環境問題）、関連する職業・資格調査 卒業生へのインタビュー、上級学校への訪問（放課後・土日祝日などを利用）
	34				

	回	指導内容	指導目標	学習活動	実践的・体験的な学習活動例など
10月	35		身近な生活産業の意義や役割と、各分野の職業について理解させるとともに、それらの職業に必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を育てる。	職業調べ	実習：産業の発展（歴史）、社会の変化と産業の変化（高齢化・少子化、国際化、情報化、環境問題）、関連する職業・資格調査 卒業生へのインタビュー、上級学校への訪問（放課後・土日祝日などを利用）
	36				
	37				
	38				
	39			発表原稿作成	実習：プレゼンテーションの方法
	40				
11月	41			発表会	実習：ポスターセッション（生徒による質疑応答と評価）
	42				
	43				
	44				
12月	45	（２）社会の変化と生活産業	社会の変化に伴い、生活に関する価値観が多様化するとともに、消費者のニーズが多様化・高度化していることを理解させる。 消費者ニーズに対応して家庭生活を支える生活産業が発展している状態について具体的に理解させる。	生活時間の分析と関連ある産業	プリント：１日の生活とそれに関わる物・サービス、関連のある産業
	46				
	47			社会の変化とライフスタイルの変化	プリント：時代の変化に伴う生活・意識の違いについて
	48				
	49			生活産業の発展	プリント：消費者のニーズと必要となる産業
	50				
	51			生活産業現場の見学	実習：見学計画の作成（チェックポイント例を提示する）
	52				
冬季休業				生活産業現場の見学	実習：小売店、百貨店、モデルハウス・モデルルームの見学、報告書の作成
1月	53			「豊かさ」について考える	プリント：「豊かさ」とは（豊かである条件とは何か。それが満たされない場合どうするか）
	54				
2月	55	（４）職業生活と自己実現	専門科目の学習と職業生活との関わりや、職業における職業資格の意義について考えさせ、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てさせることなどを通して、専門学科の学習に向けての意欲を高めさせる。	職業の選択基準を考える	実習：職業に何を求めるか
	56				
	57			職業と適性について	実習：自分の希望する職種に必要な適性と自分の興味・関心との比較検討
	58				
	59			高校卒業後の目標や計画	実習：自分の目標を達成するためには（つきたい職業とそのために努力しなければならないことについて考えさせる）
	60				
	61			ライフプランニング	実習：今後の人生を考える（学生・職業人・社会人・家庭人としてどのような生活を送りたいか）
	62				
	63			進路目標に応じた学習プランの具体的検討	実習：進路先が求めるものは何か（職種に関する知識、技術・資格など）
	64				
	65				プリント：履修計画の立て方
	66				
3月	67				実習：進路希望に応じた自分のための時間割を作成する（なぜ、その科目を履修するのか）
	68				
	69			まとめ	実習：作文「自己実現に向けて」
	70				

指導事例　1	人生を展望しよう

1　題材設定の理由

高校生にとって、ライフスタイルを考えることは容易ではない。しかし、自己実現を達成させ自分らしく生きるためには、生活設計の意義と方法を学び、将来への展望をもって、自分の生き方について考える必要がある。そのためには人間の発達と生活の営みを総合的にとらえ、人生の中で起こる様々な出来事を予測し、自分の価値観やライフスタイルを基に主体的に判断する能力を養う必要がある。

家庭科は自分自身の将来のために学ぶ教科であることを理解させ、自分の人生を自立・意思決定・自己実現の視点から総合的に考えさせるため、この題材を設定した。

2　目標

(1) 自分の生き方を考え、生活を見つめ直すことにより自己理解を深める。
(2) 成長、発達の過程で自立とヒューマンネットワークの大切さについて考える。
(3) 各ライフステージの特徴と発達課題について理解する。
(4) 自分の個性を踏まえ、ライフスタイルを主体的に創造する能力と人間関係調整能力を養う。
(5) 自己実現達成のために生活時間を設計する力を身に付ける。

3　題材の指導計画（６時間）

小題材名	時間	学習内容	留意点
自分の生活を見つめる	2	・成長、発達による自分自身の変化を確認し自分の個性や資質がどのように形成されたか考える。	・これまでの自分の生活について振り返り、成長・発達に環境がもたらす影響を考えさせる。 ・自立とは何かを理解させ、自己決定力を養う態度を身に付けさせる。
人の一生と発達課題	2	・高校卒業後の自分の人生でどのような出来事が起きるかイメージさせる。 ・ジェンダーとは何か理解する。	・ライフステージを展望し、これからの自分の発達課題・生活課題を考えさせる。 ・性別役割分業意識とは何かを理解させる。
生活設計を考える	2 **本時**	・自分や家族の生活時間の実態を調べ、その特徴や問題点について考える。 ・ヒューマンネットワークが形成されている地域と不十分な地域との違いを理解する。 ・自分らしく自己実現していくためには今からどのような準備が必要か	・自己実現に向けて主体的に生活時間の設計を立てさせる。 ・ヒューマンネットワークの必要性について考えさせる。 ・価値観、豊かさのとらえ方などの観点から人生における自己実現の意義を理解させる。

4　指導展開例「生活設計を考える」（１時間）

(1) 本時のねらい

①人はひとりで生きているのではなく、様々な人とのつながりの中で生きており、成長、発達の過程で主体的にヒューマンネットワークを形成していくことによって、より生活が豊かになることを理解させる。

②ヒューマンネットワークを形成することが、問題解決能力・人間関係調整能力を養い、自己実現へつながることを理解させ、将来の人生への展望をもたせる。

(2) 本時の展開

	学習活動と内容	指導上の留意点	評価				
			関	思	技	知	評価方法
導入 10分	・前時までに学習したことを確認し本時の目標を理解する。 ・自分らしさとは何かを考え、自分の個性をできる限り書き出してみる。	・これまでの自分が家族や周囲の人々に囲まれて成長・発達してきたことを確認させる。 ・自分らしさを確認させ自己理解を深める手かがりとさせる。	○	○		○	観察 ﾉｰﾄﾁｪｯｸ
展開 30分	・生活設計とは何かを理解し、高校時代にやっておかなければならないことを考える。 ・学校、社会では、多様なネットワークが形成されていることを知る。 ・ヒューマンネットワークの形成と地域社会とのかかわりについて、現在自分ができる課題を考える。 ・ヒューマンネットワークの形成が自己実現につながることを理解する。	・生活設計と生活資源との関係について理解させる。 ・人と人とが互いに支え合い、共に生きることが豊かな生活に結び付くことを最近のニュースなどから身近な具体例をあげて理解させる。 ・ヒューマンネットワークの形成ができていない状態とはどのようなことか具体的な例を挙げて理解させる。 ・高校時代がヒューマンネットワークを形成するのに大切な時期であることに気付かせる。	○	○	○	○	観察 活動状況 ﾉｰﾄﾁｪｯｸ 観察 活動状況 ﾉｰﾄﾁｪｯｸ
まとめ 10分	・本時の学習活動について、自分の考えをノートにまとめる。	・ヒューマンネットワークとは、人を取り巻く人間関係の援助網であることを確認させ、その形成により問題解決能力・人間関係調整能力が育成されることを確認させる。	○	○	○	○	観察 質疑

(3)評価規準

観点	評価規準
関心・意欲・態度	・自分らしい生き方について、価値観・ライフスタイル・ヒューマンネットワークなどを踏まえ、将来の生活設計の立案に取り組んでいる。
思考・判断	・生活設計の立案を通して、価値観・自立・意思決定などの観点から、ヒューマンネットワークの在り方について考えを深めている。
技能・表現	・青年期の発達課題を踏まえ、自己実現達成のための生活設計を立案することができる。
知識・理解	・自分らしく生きるためには、生活時間の設計・人間関係調整能力の育成・ヒューマンネットワークの形成が重要であることを理解している。

5　結果および考察

(1) 授業展開は、まず自分自身を見つめ直し、自立・発達課題を理解させた上で生活設計の意義と方法を学ぶという構成にし、より多くの身近な具体例をあげ、現実の生活との接点を多くもたせ、学ぶ意味が実感できる授業に努めた。

(2) 生徒から「ヒューマンネットワークの形成には相手を思いやる気持ちが大切と分かった」、「人の気持ちを考えるようになった」、「将来の生活にとても役に立つと思う」などの感想があり、ヒューマンネットワークが人を取り巻く人間関係の援助網であることを理解させることができた。その結果、保育・福祉等の分野において、ヒューマンネットワークという考え方を基本に展開することで、より授業内容を深く理解させることにつながり、また、ヒューマンネットワークの形成が自己実現につながることを、文化祭・体育祭を通して実践的・体験的に学習することもできると考えられる。

(3) 価値観が多様化してきた今日、自分らしさとは何か、自己実現を達成させるにはどう生きたらよいか、迷っている生徒が少なくないのが実態である。そのためにも、高校入学後最初に取り組む題材として「人生を展望しよう」は自己理解を深め、自分の生き方を総合的に考える上で適切であった。

(4) 家庭科の授業は、知識・技能・学習方法などを伝達することだけではなく、生徒自身が授業の主体となるように、生徒とともに現実社会を探究する必要がある。その過程で生徒に問題課題を提起させ、自己教育力をはぐくみ、いかにして題材を現実と結び付け、より現実的な授業にするかが課題である。

指導事例　2	生活文化を知ろう －郷土を知り『現代』に合った郷土食を創り出そうー

1　題材設定の理由

現代社会では家族形態の変化や食の外部化、画一的で安価な工業生産品の普及などにより、身のまわりの生活文化について考える機会が少なくなっている。先人たちが気候・風土への適応のために、また身近な素材の利用を通して作り上げた知恵や伝統を理解し、実習を通して生活文化に関心をもたせることは、自分たちの生活を見つめ直すことにもつながる。生活文化は歴史の中で、また、社会状況や価値観の変遷などにより形を変えていくものだが、生活文化を伝承し、創造しようとする意欲を生徒にもたせるために本題材を設定した。

2　目標

(1) 生活文化の背景について理解する。
(2) 身近な生活文化に関心をもち、それを伝承し創造しようとする意欲をもつ。

3　指導計画（４時間）

小題材名	時間	学習内容	留意点
生活文化って何だろう	1	・日本の様々な生活文化を知る。 ・自分の身の回りに伝わる生活文化を考える。	・生徒の興味・関心を引き出すため、VTR、写真など視覚媒体などを多数用意する。
東京の郷土食とは	1	・東京都の郷土料理を知る。 ・自分の生活を振り返る。	・VTR、写真など視覚媒体などを多数用意し、理解を助ける。 ・グループごとに考えさせる。
郷土食を『今』に伝えよう	2 **本時**	・現代の生活、嗜好にあった郷土食素材の利用を考え実習する。 ・家族が好む郷土食の応用を考える。 ・生活文化を自分の生活に取り入れる。	・実習材料の準備、衛生、安全に十分配慮する。 ・実習を振り返り、応用料理を考えさせる。

4　指導展開例「郷土料理を『今』に伝えよう」（２時間）

(1) 本時のねらい

①東京都の郷土食材（明日葉）とその利用背景を理解する。
②東京都の郷土食材の現代に合った利用方法を考える。
③明日葉を利用した調理実習を通して、郷土食材に親しむ。

(2) 本時の学習の流れ（２時間）

区分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価					資料
			評価項目				評価方法	
			関	思	技	知		
導入 5分	・本時の学習内容を確認する。 ・島しょ部とその地域特有の食材、明日葉の特徴について理解する。	・島しょ地域のイメージがわきやすいように、VTR、写真など視覚媒体などを用いて具体的な話をする。	○			○	観察 記録用紙の確認	ワークシート 食材

展開 15 分	・実習の説明を受け、調理法を理解する。	・示範を交えて説明し、プリントを記入させる。	○			○	観察 記録用紙の確認	ワークシート 示範
作業 60 分	・実習を行う。 明日葉のお浸し 明日葉蒸しパン プレーン蒸しパン	・調理法の理解、衛生、安全の徹底をはかる。 ・生徒の様子を見ながら円滑に進行するように指導する。	○		○	○	観察	食材
	・試食、評価する ・後片付け	・調理法の違いによる味の変化を比較するよう指導する。 ・時間内に後片付けが終了するように指導する。	○		○		観察 記録用紙の確認	ワークシート
まとめ 20 分	・同じ食材を使う応用料理を考え、発表する。	・様々な料理名をあげ、工夫できるものがないか考えさせる。	○	○			記録用紙の確認 発表の様子	ワークシート

(3) **評価規準**

観点	評価規準
関心・意欲・態度	・生活文化に関心をもち、意欲的に知識の理解に取り組んでいるか。 ・実習に対して、積極的に取り組んでいるか。
思考・判断	・地域に伝わる食材について見直し、応用・考察しているか。
技能・表現	・調理法の基礎的・基本的な技術が身に付いたか。
知識・理解	・郷土食、食材、調理法などに関する知識が身に付いたか。

5 考察

(1) 授業の始めに、生徒の身近にある伝統的な食べ物について考えさせたところ、様々な行事食の名称が出された。しかし現在の家庭では、ほとんど調理されていない。生活文化の伝承がますます困難になっている状況の中で、伝承されてきた「もの」の背景を生徒に理解させた上で、現代生活に組み込む一例として実習をし、さらに今後伝承させていくために考察をするという形で授業を進めた。

(2) 実習・試食後、明日葉は特有の香り・苦味があるため「お浸し」の好みは別れた。しかし「明日葉蒸しパン」は明日葉のほのかな臭いがするとはいえ、おおむね好評であった。実習後、発展として明日葉の応用料理を考えさせたが、「油で炒めたほうがよい」、「天ぷらもおいしいのではないか」など、様々な意見が出た。昔から伝わる食材を現代に合わせて工夫することで、食べやすい料理として調理することができた。授業を通して、生活文化の背景を理解し、それを生徒自身の食生活に取り入れる意欲につなげることができた。

(3) 東京の食文化を考える場合、江戸前寿司、てんぷら、佃煮など全国に普及している料理が多く、生徒にとっては、郷土食としてとらえにくい。その他、もんじゃ焼き、深川飯などもあるが、生徒の嗜好や実習材料の入手、教科目標との合致等を考慮すると、題材の選択が困難であった。今回は、島しょ部に所属する教諭の協力を得られたこともあり、八丈島を中心に伊豆七島に自生している明日葉を取り上げた。

(4) なお、実習題材として利用した明日葉の入手方法は、島しょ部所属教諭への協力依頼、スーパーマーケットや百貨店等の店舗に注文するという方法がある。しかし、より入手経路の容易な題材を求め、今後さらに検討を重ね、生活文化の伝承･創造に意欲を持たせる授業を実現させていきたい。

指導事例　３	子どもを育てる環境 子育ての悩みを知り、自分自身の成長や子育てについて考える

１　題材設定の理由

少子化の進む現代社会において、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。このような状況の中で、高校生は「子ども」についてどのようにとらえているのだろうか。生徒は子どもについて、「かわいい」存在であり、「保育」について学習することは保育の仕事と関連させて考えるものが多い。子どもに対して関心がないわけではないが、子どもとふれ合う機会も少なく、また結婚や子育ては先のこととして、食生活に関することなどよりは興味や関心は低いように見受けられる。

そこで子どもの発達を理解し、親と子どもがともに育ち合うことや、それらを支える社会の役割などについて考えさせ、子どもや保育への関心と理解を深めるため本題材を設定した。

２　目標

(1) 子どもの発達と保育、福祉について理解する。
(2) 親の役割と保育の重要性、それを支える社会の役割について理解する。
(3) 子どもと、子どもを取り巻く社会環境に関心を深める。

３　指導計画（２２時間）

小題材名	時間	学習内容	留意点
子どもをもつこと	2	・青年期の体と心について理解させ青年期の生き方と結婚について考える。	・青年期における自分の生き方を考えさせる。
母体の健康管理	2	・母体の健康管理や変化を理解し、生命の尊さについて認識する。	・VTR や資料を用意し、理解を助ける。
子どもの発達	2 2 2 4	・体の発育や心の発達の特徴について理解する。 ・基本的生活習慣の確立や乳幼児の食物や被服について理解する。 ・乳幼児の病気や事故の予防、安全確保の重要性について理解する。 ・子どもの生活や遊びについて理解し子どもとのかかわりについて考える。	・VTR や新聞記事等を活用し理解を深めさせる。
子どもの保育と福祉	2 2 **本時** 4	・親や保育者のかかわりの重要性について理解する。 ・子育ての悩みなどの情報を調べ、子育てについて考える。 ・子育ての社会的支援や子どもの福祉について理解し、子どもを取り巻く環境の変化を認識し、子どもは次代を担う存在であることの重要性について考える。	・インターネットを活用し、情報収集をさせる。

４　指導展開例「子育ての悩みを知り、自分自身の成長や子育てについて考える。」（２時間）

(1) 本時のねらい

①親の悩みや苦労を知ることで、子どもを産み育てることの意義について考える。
②インターネットを活用して、子育てについてどのような悩みがあるのかを知り、その解決法や自分自身の考えをまとめる。

(2) 本時の学習の流れ

	学習活動	教師の支援と留意点	評価					資料
			評価項目				評価方法	
			関	思	技	知		
導入 15分	・本時の学習内容の確認をする。 ・コンピュータを起動する。	・初心者が多いので、全員がコンピュータを起動させることができたか確認する。	○		○		観察	操作方法ﾌﾟﾘﾝﾄ
展開 70分	・検索する。子育て支援に関するサイトに接続する。 ・画面を一通り読む。 ・関心をもった内容を選び、自分の意見、感想を入力し、印刷する。 ・データを保存する。 ・発表する。 他の人の選んだ情報や、意見、感想をモニターで選択して読み他の考えを知る。 ・コンピュータを終了する。	・いろいろな悩みが寄せられていることに気付かせる。 ・情報を選ぶことができたか。検索した内容のなかの必要な情報の印刷と、文書の作成ができたか確認させる。 ・読み取り専用に設定して読ませる。 ・子育ての苦労や親と子が共に育ちあうことに気付かせる。	○	○ ○	○ ○	○	観察 提出用紙の確認	
まとめ 15分	・他の意見や感想を読み、自分の意見との相違について考える。	・次回の予告をする。	○	○				

(3) 評価規準

観点	評価規準
関心・意欲・態度	・親への社会支援の在り方や支援策について考えようとしている。
思考・判断	・育児不安や児童虐待などの事例を踏まえ、それらの原因及び解決を考えている。
技能・表現	・子どもを取り巻く環境の変化や課題について調べ、子どもが健全に育つための環境についてまとめ、発表することができる。
知識・理解	・近年の子どもを取り巻く環境の変化や課題について理解している。

5　考察

(1)　青年期の生き方から入り、生命の誕生、乳幼児の発達と学習するなかで、少しずつ子どもに対する理解や関心を深めたところで、インターネットを活用して子育てについて調べるという活動については、ほとんどの生徒が興味をもって取り組むことができた。

　多くの情報の中から、あらかじめ適切と思われるものを教師の側で選び検索することで、短時間で必要な情報を収集することができた。インターネットについては中学校で学習している生徒が多いようだが、文字の入力は行ったことのない生徒がほとんどであり、その作業で時間を要した。コンピュータの操作で基本的な知識や技能が身に付いていない生徒が多く、今回の指導にあたっては情報教育アドバイザーから多くの助言と協力をいただき、円滑に授業を進めることができた。

(2)　生徒の身近に、乳幼児や乳幼児を育てている人が少ない場合が多く、調べた情報を見ても実感できない部分もあるが、自己の幼少時や親子関係を振り返った意見、感想が多く書かれていた。子育ては大変ではあるが、悩みながら乗り越えていく楽しみがあることも学習し、本時のねらいは達成できたと感じた。発表については本校の実態から口頭で発表しあうことは難しいと考え、モニター上で他の意見、感想を読み合うことで、意見交換・発表とした。

指導事例　4	自己理解を深める・ライフプランニング －エゴグラムを用いた自己理解－

1　題材設定の理由

家庭に関する学科における原則履修科目として新たに設けられた「生活産業基礎」は、教師が生徒に知識を「教える」のではなく、自分の生き方、在り方に「気付かせる」授業である。また、生徒が自らの力で、自分の将来を切り開いていく（＝自己実現）のためには、様々な学習活動を通して、自分なりの課題を見付けていく必要がある。

家政科に進学してきた生徒は、「高校生活の中で自分がやりたいこと」がはっきりしている。入学してきた時の希望を進路と結び付け、夢をかなえるためにはどのような勉強をしたらよいのかについて自分自身で１年間かけて見いだし、２学年以降の履修計画につなげていく必要がある。

「自己実現」するためには、まず、「自分自身を知ること」が大切である。また、自分一人で生きているのではなく、「他人」という存在について考えたり、それぞれ考え方も違うことを認識させることで、「社会の中の自分」に気付かせることも、重要である。

このことから、１学期は自分自身を理解する「気付きのワーク」が必要不可欠であると考え、この題材を設定した。

2　目標

(1) 多様なものの考え方や生き方があることを理解し、相手の考え方を受け入れることができる。
(2)「エゴグラム」を用いて、自分の行動特徴を知り、よりよく生きるために自分が努力しなければならない点に気付くことができる。
(3) どのような事柄や人に影響を受けやすいか自分に問いかけ、その理由を知り、それを今後の人生に生かし、考えていくことができる。

3　指導計画（１０時間）

小題材名	時間	学習内容	留意点
エンカウンターによる自己理解・他者理解	2	・「私のしたいこと」による自己理解。	・体験的な活動を通して、社会では「自分」だけでなく「他人」という存在もあり、それぞれ考え方が違うことを認識させる。
エゴグラムを用いた自己理解	2 **本時**	・チェックリストの結果により、自己の行動特徴を分析し、改善の方策を探る。	・自分の行動特徴を知り、「こうありたい」と思う人生を送るためには、自分の心をどのようにコントロールしたらよいか考えさせる。
ライフプランの作成	2	・生まれてから今まで、どのような生活をしてきたか図に表す。 ・自分に影響を与えた人物、出来事を整理する。	・今までの感情の動きをたどり、見つめ直すことによって、自分の欲求や願望・価値観などを明確にする。
今後の人生を考える	2 2	・インターネットを利用して、必要な資料を検索する。 ・与えられた資料から必要なものを選択する。 ・資料をもとに、自分の生き方を考える。	・自分は、この先、学生・職業人・社会人・家庭人としてどのような生活を送りたいか考えさせる。

4　指導展開例「エゴグラムを用いた自己理解」（２時間）

(1) 本時のねらい

①エゴグラムから自分の行動特徴を知り、よりよく生きるために自分が努力しなければならない点に気付ことができる。
②そのためには、自分をどう変えていくのがよいかを考える。

(2) 本時の学習の流れ（２時間）

	学習活動	教師の支援と留意点	評　価					資　料
			評価項目				評価方法	
			関	思	技	知		
導入 20 分	・本時の学習内容を確認する。 ・チェックシートを記入する。 ・採点・グラフの作成をする。	・教師がチェックポイントを１項目ずつ読み上げることで、直感的に判断させるようにする。	○				活動状況観察	チェックシート
展開 60 分	・エゴグラムについて知る。 ・自分の行動の特徴を分析する。	・「よい」「悪い」を判断するグラフではないことを理解させる。 ・自分の基本的な対人態度に素直に気付くように援助する。		○		○	ワークシート分析	プリントワークシート
まとめ 20 分	・結果の振り返りをする。 ・自分の実践課題を考える。	・自分の心の状態をコントロールするための方策を資料から読み取ることができるよう、助言する。	○	○	○	○	活動状況観察・ワークシート分析	プリントワークシート
	・面接により自己理解度のチェックをする。	・努力目標をより明確にできるよう支援する。			○	○	自己評価分析	

(3) 評価規準

観点	評価規準
関心・意欲・態度	・意欲的に課題に取り組もうとしている。 ・目標をもって、自己実現への努力をしようとしている。
思考・判断	・データを正しく判断し、将来の進路に向けて具体的に課題を追求している。
技能・表現	・データからえられた自分の考えを分かりやすくまとめ、伝えることができる。
知識・理解	・多様なものの考え方や生き方があることを理解している。

5　考察

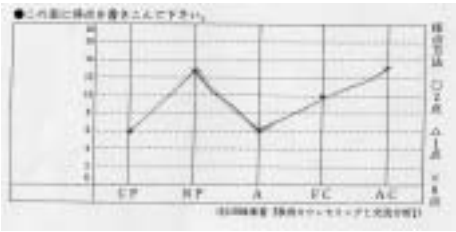
(1) この題材を設定するにあたり、自分自身の行動の特徴を客観的に知ることに対して、抵抗感があるのではないかと心配していたが、生徒は積極的に授業に参加してきた。各自のチェックが終わった時点で、互いのグラフを見せ合い、自分の行動特徴について納得するとともに、自分と他人との違いを認識できたようである。

(2) 面接で、ある生徒は、「自分の希望する職種で活躍する場合に大切なことは」という教師の問いかけに対し、「周りの人の意見をよく聞いて技術を身に付け、どんなことがあっても根気強くがんばること」という答えをした。この授業を通して、自分の行動の特徴を踏まえ、課題を見つけたことで、将来の夢をかなえるために高校生活で自分が努力すべきことをより明確にすることができたと考えられる。

(3) 「自己理解を深め、主体的な生活能力を育成する」という観点から、「エゴグラムを用いた自己理解」は非常に効果的であると考えた。

補足：エゴグラムは、心理学の「交流分析」という理論に基づき、アメリカのエリックバーンが提唱した。自分自身の行動の特徴を知り、人間関係をよりよくするためのヒントをつかむものである。
エゴグラムは生徒の心理状況に応じてかなりの変化が生じるのではないかと考えられたので、本検査２週間前にも同じ検査を行ったが、ほぼ同様の結果が得られた。

チェックシート解析から得られた、ある生徒のエゴグラム例



Ⅳ　研究の成果と課題

今年度は、「授業評価を生かした指導の改善と工夫」を主題に研究を進めた。また、新学習指導要領の実施に伴い、「自己理解を深め、主体的な生活能力を育成する」を副題とし、その視点に沿った指導事例の検討および「家庭基礎」、「家庭総合」、「生活産業基礎」の年間指導計画を作成した。

1　異なった視点からの授業評価

これまでも、自分の授業に対して自己評価し、課題を把握して授業改善を行ってきた。しかし、授業者とは異なった視点をもつ生徒の声を受けとめ、工夫改善を進めていくことも大切である。今回、４校で生徒による授業評価を行った結果、教員の授業に対する提案や要望、生徒自身の授業に対する取り組みに対する反省など、様々な意見が集約された。また、評価項目に生徒の「自己評価」を取り入れたことで、教員の望む「授業に対する姿勢」を生徒に知らせることにつながった。生徒の自己評価は「甘い」、との指摘も挙げられたが、生徒による授業評価実施後には、授業に対する取り組み姿勢が意欲的になったとの報告もあり、生徒の意識改革が見られた。

今後は、生徒の自己評価力を向上させるため、継続的に授業評価を実施し、精度を高めるとともに、生徒の変化を観察していく必要がある。また、評価規準については授業の実践を通して、さらに項目を整理していきたい。

2　社会の変化に対応する能力を育成する指導計画の工夫

事例１では、人間は様々な人とのつながりの中で生きていることを理解させ、人間関係を積極的に調整する力を養うことの重要性について学習することができた。事例２では、先人たちが伝え、守ってきた日本の生活文化を新たに創造・発展させながら伝承していくことをねらいとした。その結果、身のまわりにある伝統文化を知り、伝承していくための意欲を養うことができた。事例３では、少子化や核家族化の進展により、家庭の中での「子育て」に関する親の悩みについてインターネットを使って検索することにより、子どもを取り巻く環境の変化や、育児不安、児童虐待などを事例を通して学習することができた。事例４では、新学習指導要領の中で、家庭に関する学科の原則履修科目となった「生活産業基礎」において、心理テストを取り入れた授業を展開した。自己分析を授業の中に取り入れることで、自己実現に向けて高校生活で努力すべきことを明確にさせることができた。

家庭科は、各自の生活課題を解決してよりよい生活を創造し、人間としての自立を図ることを目標とした実践的・総合的な教科である。社会の中で生きていくためには、多様な生き方があることを認識し、生徒一人一人がどのような生き方をしていきたいかを考え、さらに将来を見通す力を身に付けさせていく必要がある。今後も、問題解決的・体験的な学習を多く取り入れ、自らが「気付く」「考える」そして「行動する」ことを重視した授業を行い、社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成を目指したい。

授業評価について生徒の自己評価力を高めるためのアンケート項目の検討を行うなど、さらに研究を進め、指導の改善と工夫を図り、その結果を生徒に還元していきたい。

平成１５年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成１５年度　　第３１号

平成１６年1月２１日

編集・発行　　東京都教職員研修センター
所在地　　東京都目黒区目黒１－１－１４
電話番号　０３－５４３４－１９７６

印刷会社名　　勝田印刷株式会社